

四日市港管理組合議会ニューズ

Yokkaichi Port Authority Assembly

第74号（令和6年1月発行）

令和5年は、10,11月に第3回定例会が開催され、一般質問で各議員が下記のとおり管理組合執行部の見解を質しました。

主な質問・答弁要旨

笹井絹予議員



主な質問項目
・四日市港の更なる活性化に向けて
・サイバー攻撃の対応について

- 「四日市港外貿コンテナ貨物流動等調査」を踏まえ、外貿コンテナ貨物取扱いの更なる増加に向けた取組について、現状と今後どう拡大していくのか聞きたい。
- 外貿コンテナ貨物取扱量は、2015年以降順調に伸びし、2018年～19年には20万TEUを突破したが、その後米中貿易摩擦の影響、新型コロナウイルス感染拡大に伴う物流混乱等の影響により、2022年は17万3,000TEUと、コロナ禍前の水準には回復していない。「貨物流動等調査」の前回の調査結果からの変化との相関関係を分析し、ポートセールスの在り方など、必要な箇所があれば見直しを行い、四日市港の外貿コンテナ貨物のさらなる増加に引き続き取り組んでいく。
- 2023年7月、名古屋港でランサムウェアによるシステム障害が発生し、およそ3日間にわたりコンテナターミナルの操業が停止し、物流に大きな影響を与えた。サイバー攻撃への対応、セキュリティ対策など、どのように考えているのか。
- 四日市港のコンテナターミナル管理システムは、名古屋港とは異なり一般ユーザーから直接アクセスできない独立したシステムである。また、名古屋港のランサムウェアの感染経路とされたVPN機器は、四日市港ではアクセスできるIPアドレスを制限するなど、より高度な対策が施されている。
- 四日市港は国際拠点港湾でもあり、いざというときのためのインシデントへの対応体制やセキュリティ対策教育も今後一層強化していただきたい。

野口正議員



主な質問項目
・四日市港の特徴を生かした港勢の拡大に向けて

- 四日市港が今後一層荷主等にも選ばれる港になるためどのような取組を行っているのか。また、港勢拡大に向けて、独自性も踏まえた名古屋港との連携はどうか。
- 現在策定中の新たな長期構想では、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた背後圏の脱炭素化の促進や、ドライバーの実労働時間の短縮と環境負荷低減に寄与できるモーダルシフトの促進、AI等を活用した港湾機能の高度化、港の南北軸の確立に向けた臨海部における新たな道路整備をはじめとする港湾物流の円滑化など、四日市港が30年後も選ばれる港になるよう将来を見据えて取り組むこととしている。四日市港と名古屋港との連携について、伊勢湾の利用が比較的低い地域を中心に、名古屋港と共同ポートセールス活動を行っている。今年度は、4月に滋賀県の彦根商工会議所を訪問し、ポートセールスを行っている。
- 他港も類似の取組を行っており、四日市港のセールスポイントがはっきり伝わっていない。コスト説明はどうしているのか。また取組の見通しはどうか。
- 四日市港の優位性は、背後地の企業が集積しており、伊勢湾の出入口に近いということ。今後、道路網も整備される。時間コストや人件費といったコスト削減が図られるということを荷主企業にしっかり説明していく。
- 環境面や労働時間の問題もある中で、CO2の削減やドライバー不足解消に寄与するといった観点でのセールスポイントも強調していく。